



教育 事情



タンザニア

BOP層実態調査レポート

- 調査実施日 2012年6~7月
- 調査場所: ゲティ地区・キノドーニ地区・ミコチェニ地区
- ヒアリング対象者: ・A氏(男性 37歳 ドライバー 既婚 子供2人) ・B氏(女性 43歳 秘書 既婚 子供3人)
・その他 アンケート協力者 11名

1. 教育制度: タンザニア本土の義務教育期間は初等教育の7年間、ザンジバルでは前期中等教育2年を含めた9年間となっている。

初等教育/Primary School



教育課程: 7年
日本での教育レベル: 小学校

スタンダード4
(小学校4年生)

スタンダード7
(小学校6年生)

進級試験

進学率51%



進級試験!!

各進級試験では、合格できないと次の段階に進むことができず、また進学試験を兼ねる場合には、成績によって入学できる学校が決まる。

高等教育/Vocational School, College, University



教育課程: 3年以上
日本での教育レベル:
職業訓練校、専門学校、大学

中等教育/Secondary School



教育課程: 6年
日本での教育レベル: 中学・高校

前期中等教育/Ordinary Level : 4年間

進級試験

フォーム4
(中学校3年生)

進学率11.7%

後期中等教育/Advanced Level : 2年間

進学試験

*大学の一般教養レベルまで高校で学ぶ

フォーム6
(高校3年生)

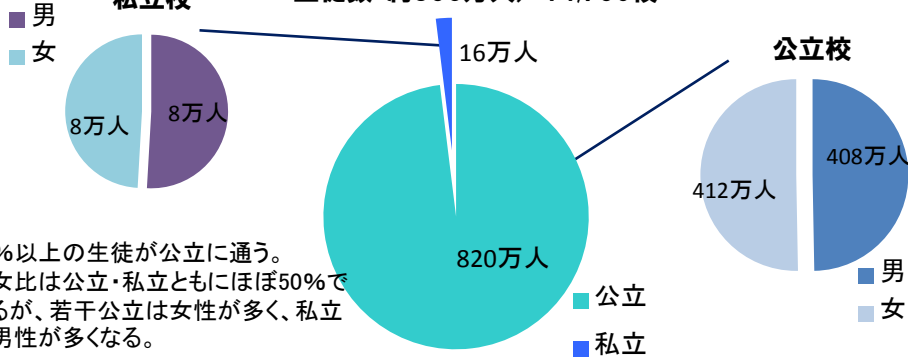
これはいわゆる大学受験で、合格者は大学に進み、それ以外は専門学校や職業訓練校に進み勉強を続けるか、就職先を探すことになる。後期中等教育に進めなかった者も、前期中等教育の成績次第で専門学校や職業訓練校に進学することができる。



2. 教育統計(出所: Basic Education Statistics in Tanzania 2011)

初等教育/Primary School

生徒数: 約836万人 / 14,730校



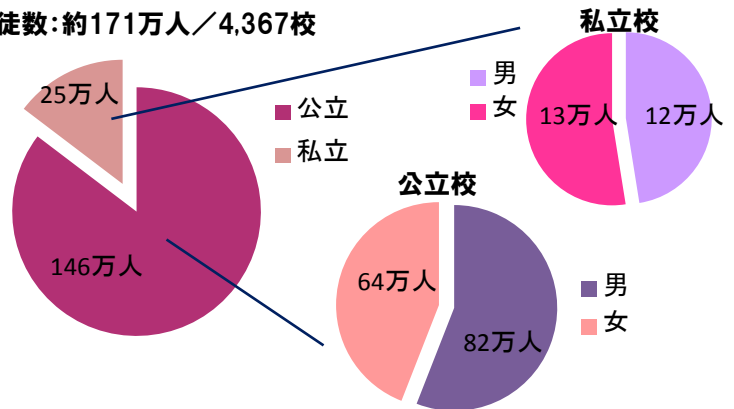
98%以上の生徒が公立に通う。
男女比は公立・私立ともにほぼ50%であるが、若干公立は女性が多く、私立は男性が多くなる。

小学校中退者は約7.6万人。そのうち75%が不登校を理由に挙げている。前期中等学校への進学率は51% (45.6万人 / 89.5万人) となっている。



前期中等教育/Ordinary Level

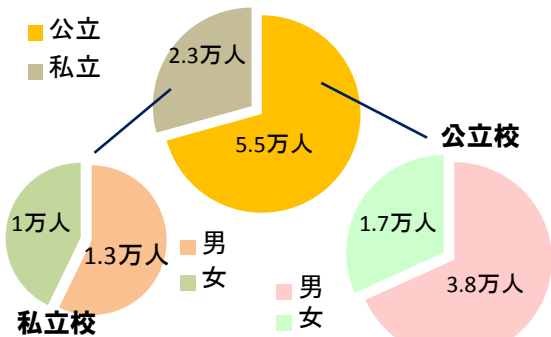
生徒数: 約171万人 / 4,367校



前期中等教育では85%以上の生徒が公立に通っている。男女比は公立において男性の割合が大きくなっているのに対して私立は女性が若干多い。

後期中等教育/Advanced Level

生徒数: 約7.8万人 / 4,367校

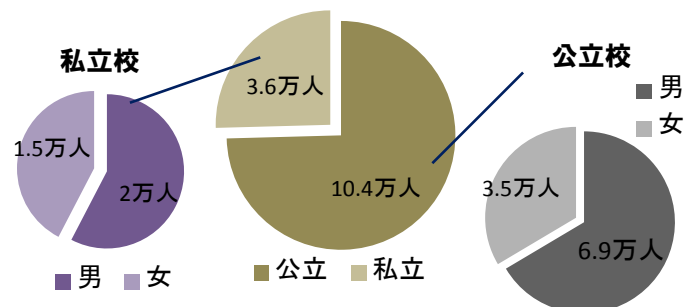


後期中等教育では70%以上の生徒が公立に通っている。男女比は公立・私立ともに男性の割合が大きくなっている。

中学校中退者は約6.6万人。理由として、不登校が72.7%を占め最も多く、続いて経済的な理由(13.8%)、妊娠(8.1%)となる。中退者の99%は前期教育の生徒で、後期教育での中退者は全体の1%未満である。また、後期中等教育への進学率は11.7%となっている。

高等教育 / Vocational School, College, University

生徒数: 約14万人 / 公立11校、私立16校



男女比は後期中等教育と同様に男性の割合が女性に対してほぼ2倍になっている。



3. 通学・通塾状況

授業料・その他経費 *タンザニアシリング(Tsh)換算レート 1円=約20Tsh(2012年6月末時点)



初等教育/Primary School

公立 授業料 Tsh1万(約500円)/年 寄付、その他雑費(清掃費、警備費、机・イス等備品、教科書代) Tsh15万(約7,500円)/年

私立 授業料(雑費が含まれる) Tsh100~150万(約5~7.5万円)/年

+ 送迎バス代: Tsh3万(約1,500円)/月

中等教育/ Secondary School

公立 授業料 Tsh4万(約2,000円)/年 寄付、その他雑費 Tsh30万(約15,000円)/年

+ 寮の場合: Tsh12万(約6,000円)/年

バス代: Tsh300~500(約1.5~2.5円)/日

私立 授業料(雑費が含まれる) Tsh110~170万(約5.5万~8.5万円)/年

+ 寮の場合: Tsh160~220万(約8~11万円)/年



高等教育/ Vocational School, College, University

授業料 Tsh380万(約19万円)/年

通塾状況

塾に通っている生徒はかなり多く、塾の経営主体はタンザニア人である。家庭の経済状態にもよるが、スタンダード7に受験があるため、スタンダード4頃から塾に通い始める生徒が多い。学費はまちまちで、塾の施設や講師の質によってかなり違ってくる。料金は、小学生は1回Tsh500(約2.5円)ほど、フォーム4のいわゆる高校受験を意識した生徒が通う塾はTsh3~5万(1,500~2,500円)/月ほどである。交通費をかけて塾に通っている生徒もいるため、塾の学費と交通費で月収に対してかなりの出費となる。

4. 教育の問題点

小学生・中学生の子供を持つ親が一番問題だと考えていることは、公立の教師の給料が安いことである。これが教育に関する問題のかなりの部分を占めていて、これが解決もしくは少しでも良いほうに動けば教師のやる気も上がり教育レベルも向上すると考えている。現状、かなりの教師は別の職を探しているか、もしくはアルバイトとして塾の講師や家庭教師の仕事をしている。本業よりも力を入れてバイトをやっている教師も多い。給料が上がれば、このような教師たちは減るだろうし、今後教師になろうとする人たちのレベルも上がってくる。

次に来るのは施設や道具の問題で、黒板・黒板消し・チョーク・教壇・机・椅子・教師が使う教科書、最低限これらの施設や道具は揃えて欲しいと考えている。体育・美術といった科目がないことも問題点として指摘している親もいるが、これも施設や道具の不足問題へつながっている。

その他、中学生から職業訓練校などで教えられている実務的なことを教えるべきだといった意見やPTAを組織した方がいいといった意見、体罰を軽減すべきだといった意見がある。



【免責事項】本レポートで提供している情報は、ご利用される方のご判断・責任においてご使用ください。JETROでは、できるだけ正確な情報の提供を心掛けておりますが、本レポートで提供した内容に関連して、ご利用される方が不利益等を被る事態が生じたとしても、JETRO及び執筆者は一切の責任を負いかねますので、ご了承ください。